



長年の功績に栄誉

～叙勲・褒章受章～

このほど叙勲・褒章が発表され、本市から10人の皆さんが受章されました。ここで、受章された6人(4人は掲載を辞退)の経歴とコメントを紹介します。

秋の叙勲



旭 日 双光章
若松 東征氏
地方自治功勞 76歳

現場へ駆けつけ 自らの目で判断

平成7年4月に黒磯市議に初当選。以後平成29年4月までの22年間にわたり黒磯市議・那須塩原市議としてまちの発展に尽力。ボランティア団体の代表をつとめながら、地域への奉仕に全力を注いできた。

はるまさ
若松 東征氏

生活の身近な問題を学び、解決に向けて取り組む「生活学校」。大内さんは25年以上にわたり、その中心的存在として、環境問題や少子高齢化、貧困などの社会問題に取り組んできた。
「レジ袋減らし隊運動」や「復興支援運動」、フードドライブ、子ども食堂など活動は多岐にわたり、「どれも新しい挑戦の連続でした」と振り返った。「どんな高い壁も、仲間と知恵を出し、議論すれば、必ず道が開ける」と話し、「最後まで諦めないことが大切」と活動の信条を教えてくださいました。「仲間や地域の人の支えに感謝したい」と受章の喜びを話してくれました。

「現場へ足を運ぶことが一番大切。自分の目で見て、徹底的に調査し、判断してきた」。在任中の理念を、若松さんはそう振り返った。前例にこだわらず、その時々で自分の信念に基づき行動。「その分、敵も多かつたけど、八方美人にはなりたくなくなつたんだ」と笑顔で話してくれた。
「誰よりも多くの恥をかき、その分多くを学んできた」。そんな彼の周りには、いつも支えてくれる家族がいたといい、「今回の受章は家族のおかげ」と感謝を話した。今も地域のボランティア活動に奔走している若松さんの目は、昔と変わらぬ情熱が宿っていた。

誰かが動かねば 社会は変わらない

平成10年に黒磯市生活学校の会長に就任。平成21年からは栃木県生活学校会長や全国生活学校副会長、栃木県コミュニティ協会副会長など、数々の要職を兼任。平成26年より財あしたの日本を創る協会理事。



旭 日 双光章
大内 康子氏
社会連帯推進功勞 77歳

大内 康子氏

「やっていてよかった」。地域の人から感謝の声が聞こえたとき、井上さんはこう感じたという。
在任中には、3日間陸の孤島と化した那須水害や2か所の共同浴場の改修など多くの苦労があったそう。
特に、平成6年に消防車用車庫を新築するときに、各戸負担を減らすため努力したことや、冬季の道路凍結が危険なため、当時の塩原町に陳情し融雪設備を設置したことが非常に心に残っているそう。
今回の受章を受け、「まさか受章できるとは。地域の皆さんのおかげ」と感謝を口にしてくれた。

地域の安寧を願って

平成28年6月に勇退するまで、24年3か月の長きにわたり古町1・2丁目自治会長として地域のために尽力。現在も、塩原温泉コミュニティ会長や市文化協会監事をつとめるなど活躍している。



旭 日 単光章
井上 武志氏
地方自治功勞 77歳

井上 武志氏

地域住民のため、あらゆる災害に対し最善を尽くす



瑞 宝 双光章
相馬 文雄氏
消防功勞 70歳

相馬 文雄氏

昭和50年、黒磯那須消防組合消防本部に奉職。平成17年に那須消防署長となる。平成21年に黒磯那須消防本部次長兼黒磯消防署長で退職するまで、地域住民の安全安心を守り続けた。

「土砂崩れで塩原が陸の孤島になり、夜通しで警戒にあつた」と在任中最も印象深かった那須水害を振り返る。副団長だった君島さんは、団員たちを率いて、決断を迫られる場面が数多くあつた。「団員の安全を守ることの大切さや自分の決断に対する責任の重みを感じた」という。「いざ」といときは、仲間と団結することが大事」という君島さん。日頃から幅広い世代の団員と交流を深めてきたといい、「周囲の人たちの協力や支えがあつたからこそ受章できた」と喜びをかみしめていた。

秋の褒章



藍 綬 褒章
小林 浩氏
消防功績 57歳

小林 浩氏

危機迫る現場で “引く” 勇気を

昭和60年に消防団に入団。分団長や副団長を経て、平成29年4月に那須塩原市西那須野支団長に就任。現在は280人の団員の先頭に立つ。仕事と消防団の両立で多忙ながらも趣味のキノコ採りに励む。

会社勤めの傍ら33年の長きにわたり、消防団の活動に携わってきた小林さん。「消防団の仲間や家族、自治会、会社の皆さんの協力のおかげでやってこられた」と話してくれた。

「那須水害から20年目の思いがけない受章」と相馬さん。水害発生時は全消防職員が不眠不休で人命救助や避難誘導、行方不明者の捜索活動などを行った。
平成15年の大規模工場火災では、県内外の消防本部の応援を得て、多くの消防団員との懸命な消火活動がとて印象に残っているという。
今回の受章を受け、「第一線で消防活動を行ってきた先輩や同僚の支えによるもの。また、地域のために昼夜献身的に防災活動を行う消防団員の皆さまにも心から感謝しています」と、感謝の言葉を口にしてくれた。

トップとして 培われた決断力

昭和42年、塩原町消防団に入団。平成16年4月に塩原町消防団長を退任するまで、37年間にわたり地域の災害に立ち向かってきた。現在は、代々受け継いできた旅館を守りながら、趣味のゴルフを楽しむ。

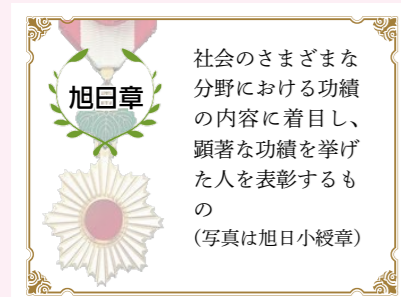


瑞 宝 単光章
君島 則夫氏
消防功勞 72歳

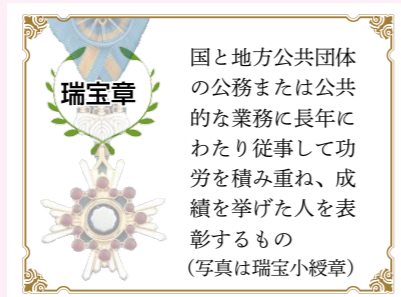
君島 則夫氏

「団員の命を守るのも支団長としての責務」。2年前に参加した日本消防協会の特別研修で、東日本大震災の際、団員9人を津波で亡くした事例を聞き、改めて自らの責任の重さを痛感したそう。「現場で進むべきか引くべきかを即座に判断し、団員の安全を全てに優先させなければ」と決意に満ちた表情で語る小林さん。今後とも団員の安全教育に力を注いでいく。

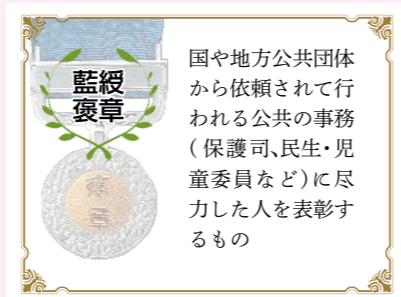
勲章の種別



社会のさまざまな分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた人を表彰するもの (写真は旭日小綬章)



国と地方公共団体の公務または公共的な業務に長年にわたり従事して功績を積み重ね、成績を挙げた人を表彰するもの (写真は瑞宝小綬章)



国や地方公共団体から依頼されて行われる公共の事務(保護司、民生・児童委員など)に尽力した人を表彰するもの